

夢を追う卒業生 その29 令和2年3月19日

「長い目」で見えていこう

◇今回は、小森哲朗さん（奈良教育大学大学院）のレポートです！

「長い目」で見えていこう

こんにちは。2013年度卒業生の小森哲朗です。私は現在、奈良教育大学の大学院に在籍しています。人間の発達を専攻し、学校教育・社会教育を題材に研究を行っていました。修士論文の審査が終わったため、この度「夢を追う卒業生」の筆を執らせていただきました。

私がこの原稿で皆様に伝えたいことは、「長い目で見ること」の大切さです。勉強法や高校生活でのコツなどは他の卒業生さんが語ってらっしゃいますし、私は心持ちの方をメインに語らせていただきます。言いたいことがいつか実感できるように丁寧に書きますので、どうぞ長い目で見ていってください。

大学の紹介

当大学は、教員養成課程が充実した関西の教育大学です。知名度はあまりないかもしれませんが、多くの分野において造詣の深い教授が多く、私が志望したのもある有名な先生がいたからでした。大学を選ぶ際は、そこの教授についても調べてみるのがおすすめです。

さて、奈良教育大学の魅力はその立地です。なんと、あの鹿で溢れる奈良公園のすぐ隣。ということは当然、鹿が大学内を当たり前のようにやってきます。一階の講義室となれば、窓を見やれば鹿の行進。時期によっては、可愛いバンビも見られるでしょう。教員志望の動物好きな関高生さん、うちの大学はいかがでしょう。動物が苦手な教員志望の方もご安心ください。大学内に入ってくる鹿は臆病な個体が多いため、向こうから寄ってくることはまずありません。遠くから、優しく見守ってあげましょう。

大学での学びについては、実践的な活動が印象的でした。座学がもちろん一番多いですが、見学、討論、模擬授業といった活動も同様に多く、教育実習は4回ほどありました（これは履修や取得免許によって変わり、私の履修の場合こうなったのです

が)。「百聞は一見に如かず」という言葉がありますが、まさにこの大学は「聞くよりも見る」、さらに「見るよりも実践する」というスタンスです。困難も多いですが、身に付く力も大きいです。

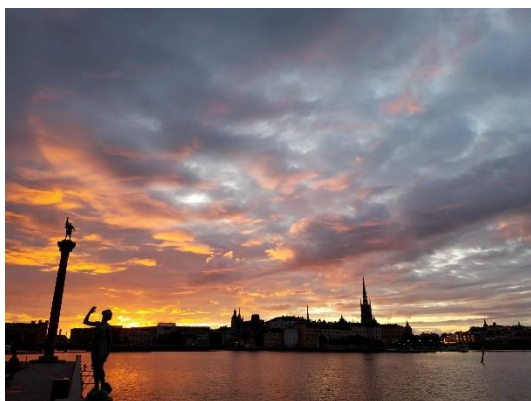


講堂前で優雅に昼食をとる鹿たち

転換期

とはいっても、はっきり言って自分はあまり真面目な学生ではなかったのが実際のところでした。元々高校時代からぱっとせず、人付き合いも得意ではありませんでした。学部生時代は、講義に出ずに遊びに行くこともしばしば。「自主休講」なんて言葉が流行りました。

そんな中、私のところに「北欧諸国の学校・福祉施設等を視察するツアーに参加しませんか」という誘いが届きます。この時の視察対象国は「北方の獅子王」で有名なスウェーデン、そしてサウナの本場フィンランドでした。当時の私は卒業論文をどう書こうかと悩んでいる時期でもあり、そのため卒論の何か参考になれば、という思いで参加しましたが、今では参加しておいて本当によかったと思います。行った当時ではストックホルムの朝焼けが凄かったとか、本場のサウナに水風呂がないだとか、観光気分な感想ばかりでした。そもそもそこには友達も知り合いもおらず、ツアーの同行者は何十歳も年上の教職員や研究者などで、場違い感が強く、今思えばよく参加したなあと思います。それでも、その時に視察したものは卒業論文を書くにあたってとても大きな助けになりました。それが、当時の「短い目」で見た成果



ストックホルムの朝焼け

です。しかし、後々視察した内容を振り返ってみると、当時としてはただ視察しただけのとある施設に、次第に興味が惹かれるようになってきました。それが膨らみきったことで、今の大学院生活に繋がっています。卒論のテーマとはあまり関連がなかったため、この施設を深く注視しなかったのですが、それは大変もったいないことをしたと今でも感じます。これも何か役に立つかも、と「長い目」で見えていたら、また得られたものは違ったのかもしれない。

長い目を見たからこそのもったいなさと強み

そんなこんなで大学院に進学し、同時に大学附属の中学校で教員も始めました。研究フィールドは大阪にあったため、大阪と奈良を行ったり来たりする毎日です。

この時に感じたのは、「もっと学部の頃の講義をしっかり受けておけばよかった」という思いでした。学部の頃は小学校教員の免許取得の際に、5教科に加え音楽や体育などの講義も受けていたのですが、自分には関係ないとあまり真面目に参加していませんでした。ところが学校で働くようになると、合唱などの活動にも参加することになり、音楽の指導が求められました。体育は専任の先生が増えているため、彼らがやってくれるのだろうと置いていたところに授業を任せられ、ダンスの授業の日には目も当てられない始末。自分には関係ないと適当に済ませていると、長い目を見た時後悔することもある……と思います。

同時に、その時はあまり意味のないことでも、長い目を見た時にとても役に立ったこともありました。例えば先ほど熱弁した鹿について、私は興味本位でその生態や行動を調べていたのですが、それが講師として理科の授業を担った際には大いに役に立ったのです。うちの大学は生きる教材が闊歩している訳ですから、生物の観察や勉強にはうってつけでした。また、趣味で続けていた絵画や、高校卒業で辞めて

しまった水泳も、今は美術や体育での武器として活躍しています。

子どもに関しても、同じことが言えるかもしれません。授業で教えたことが即座に身に付き、使えるなんてことはあまり多くないと思います。子どもの発達は、たくさんの紆余曲折を経て、学びや経験など外からのエネルギーをたっぷりと吸収していくことで、その段階をゆっくり登っていくものです。学んだことを表出していくには時間がかかります。だからこそ、「長い目で見ていく」ことは重要な視点なのだと考えます。

メッセージに変えて

正直、今学校で学んでいることが役に立つのかと思っている人も結構多いのではないかと思います。私自身もそうでしたし、無意味な時間のように感じることもありました。しかし、将来は何が起こるか分かりません。今学んでいることが、大人になった時、結婚した時、親になった時、退職した時……など、どこかの機会に役に立つことがあるかもしれません。例えば、と言える事例になるかは分かりませんが、コロナウイルス関連のニュースの中に、イランでメタノール摂取による被害があったという報道がありました。化学をしっかりと学べていれば、エタノールとメタノールの違いやその危険性に気づけたかもしれません。その時はただの知識としか捉えられなくても、そのうち自分の生活を左右する要因になることもあるのかもしれません。授業でも日常生活でも、自分には無関係だ、無意味な時間だと選択の幅を狭めず、どうか「長い目で見て」、いろんなことを貪欲に吸収して行ってほしいと思います。

今が上手くいかなくても、今学んでいることがこれからの自分にとっての強みになる機会がきっとくるでしょう。長い目で見ていこう。応援しています。

